

連載を始めた当初、己に課したルールがありました。それは、時事に関することは書かない、あとは、食に関することは書かないという事でした。時事ネタに関しては、アタマの悪い僕には、書かないというより、書けない。食に関することは、えっと、あつさり自分ルールを破って相当数、書いてやっています。書いちゃっていますが、なにせ登場するのが、おでんの中のちくわぶとか、叔母から送られてくる明太子とか、先月は冷や麦がどうだこうだ、とか、立ち飲み屋でグズグズ呑んであーだこーだ、とか、ま、僕の間人としての器と比例して、テーマのスケールも小さいのなんの。でも、今回は違うぞ。

昨夜、いつもの立ち飲み屋で店員のまきちゃんに、明日エッセイの締め切りなんだけど書く気がしねえ、書きたいこともねえ、あーやだやだ、なんか、ひとこと言っただけで書いてみるからさ〜と、ユルイ話しをしていたところ、彼女は少し考えて、小さな声で「卵は？」と呟きました。

僕も、はたと数秒考え、卵という手があったか！と小さな声で唸りました。

卵。数ある食材の中でこれほどの大物がありますよ。ここから先、卵のアレルギーなどがある方には申し訳ありませんが、卵の事を卵かけごはん的にズルズル書いていくこととなります。

人生最後の食事は何かいい？ただし、あの店のあの料理、といったピンポイント回答は無しね、という、必ず盛り上がる

る会話がありますが、そこで、えーっと、卵かけごはんかなあ、と応える人が思いのほか多い気がします。そこには、わざと地味なチョイスをしてウケを狙っているというより、数ある大好物の中から悩みに悩み、最終的に子どもの頃から食べつけた卵かけごはんに着地してしまうみたいです。卵はもう、身近過ぎてその存在の大きさを気にかけていませんね。目玉焼きだって、好みの焼き具合もけっこう細かく分かるし、醤油派だのソース派だの無意識にこだわってる。「卵を焼き固めた料理」だったって、卵焼きだのオムレツだの厚焼き玉子だの、出汁巻き卵だの、それに混ぜ混む具材や、かけるソースによって料理名は無限定し。

茹でたって、その好みは様々、静かに揺れる温泉卵だって、人によっていろいろ。茹でるだけではモノ足らず、味付けタマゴに昇進することもしばしば、卵が入っていないおでんなんて！とほとんどの人が言うしき。卵を制すれば料理を制する、といった発言をする料理人さんをテレビで観たことあるし、寿司屋に行つて卵を食べればその店の実力が解ります、などとウソかホントかしたり顔でいうインチキ臭いグルメなヒトもいますしね。

相変わらずハナシが飛びますが、僕が取り上げたいのは、烏骨鶏の卵がどうか、黄身が箸で摘まめる云々とか、そういうブランド卵じゃ無くてですね、フツウのスーパーで手に入るフツウの卵の実力です。庶民の味方の卵の生き方です。自ら食卓というアリーナのセンターに立とうとはしない

エッセイスト 北園修

横浜生まれ、横浜育ち。東京コピーライターズクラブ在籍。クリエイティブディレクター、エッセイスト。

けれど生活の中の絶対メンバー。その気になればいつでも主役を張れるけれど、めったにそんな派手なことはいらない。卵は、卵として、そこにあればいい。真の実力者は人混みの中で目立とうとはしませんね。卵の立ち位置はまさにそれ。

スーパーの中でマグロ大トロ特売コーナーや松坂牛大特価がスポットライトを浴びているその時、実力者である卵は、いつもの棚で、ワタシ玉です毎度どうも、ワタシMですこんにちは、と、騒がず静かに、皆さんの食卓に運ばれるのを穏やかな笑顔で待っていますね。実力が無ければできない所作と言えるでしょう。僕は18歳から始まった独り暮らしの中で、卵があれば大丈夫、といった卵信仰のようなものがキモチの中に強くあります。

今回もまた、ゆるゆるな文章になつてすみません。書いてるうちに唐突にゆるゆるな茶碗蒸しを食べたい気分になりました。最近、茶碗蒸し、食べました？



Photo:藤間 久子「Slowly」

岡山県生まれ、JPS(日本写真家協会)会員。カメラマンとして活動の傍ら、個展やフォト&エッセイなど自分の作品づくりに励んでいる。